

午後Ⅱ試験

全問に共通して、具体性があり、経験に基づいていることをうかがわせる論述が多かった。一方で、答案用紙の冒頭で記入を求めている“論述の対象とする計画又はシステムの概要”、“論述の対象とする製品又はシステムの概要”が未記入又は記入漏れの項目があるなど適切に記述されていないので、評価を下げた論述が相当数あった。問題文の引用で文字数を費やし内容が薄い論述や、問題文に例示した項目と一般論の組合せから成る具体性に欠ける論述、設問で問うている内容に対応しない論述も散見された。このような論述では、受験者の能力や経験を正しく評価できない場合があるので、実際の経験に基づき設問に沿って具体的に論述してほしい。

また、論述は第三者に読ませるものであることを意識してほしい。例えば、業界特有の用語や略語には説明をつける、段落を分けたり見出しを入れたりすることで何について述べているのかを明確にするなど、自分の考えを第三者に的確に伝えるための工夫をしてほしい。

問 1（複数のシステムにまたがったシステム構造の見直しについて）では、具体性のある論述が多く、実際の経験から論述していることがうかがわれた。システムアーキテクトは、業務を理解してシステムの構造を設計する役割をもつので、業務とシステムの両面からの論述を期待したが、そのような論述は少なかった。

設問では、業務とシステムをどのような視点から分析し、どのようなシステム構造を選択したかについての論述を求めたが、業務の視点からの分析を論述していないものや、システム構造ではなく連携方式だけを論述しているものが多く見られた。また、選択したシステム構造のデメリットとその軽減方法の論述を求めたが、システム構造のデメリットではなくシステム統合などの背景そのもののデメリットを論述しているものが散見された。

問 2（システムテスト計画の策定について）では、具体性のある論述が多く、多くの受験者がシステムテストを経験していることがうかがわれた。一方で、システムテストの計画の策定についての論述を求めたにもかかわらず、システムテストの実施についての論述に終始するものも見られた。

設問では、業務の重要度や業務特性についての論述を求めたが、業務について論述せず、システムの説明やシステムテストの経緯・経過の説明に終始している論述が多く見られた。また、制約がある中でどのように品質を確保したかについての論述を求めたが、制約内容の記述がないものや、制約と品質確保の工夫が対応していないもの、プロジェクトの制約とシステムテストの制約を混同しているものなどが散見された。

問 3（組込みシステムの開発におけるプラットフォームの導入について）では、具体的で経験をうかがわせる論述が多かった。また、論述の対象となったプラットフォームは多種多様であったが、その多くは、システムアーキテクトとしての視点から、適切に論述されていた。比較項目については具体的だが、比較結果については分析が浅く論述が不十分なもの、プラットフォームに対する知識不足と思われるものが見受けられた。また、導入目的とその達成度との関係に一貫性がないものが散見された。